

感染症の予防のための情報提供について

病 名	腸管出血性大腸菌感染症 (O157)				
年齢及び性別	62才・男性	職 業	会社員		
住 所	明和町				
発病年月日	令和 2年8月30日				
診断年月日	令和 2年9月 7日				
(患者発生の経過)					
8月30日 腹痛、下痢便がみられた。					
8月31日 症状継続したため、町内の診療所を受診した。					
9月 1日 血便がみられ、松阪市内の診療所を受診し、同市内病院へ紹介受診後、入院となった。					
9月 7日 9月1日の便検査から腸管出血性大腸菌感染症と診断された。 現在、患者は入院治療中ですが、症状も軽減し快方に向かっています。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施 (松阪保健所)					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】 (四日市市保健所分を含む)					
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
患者	29	29	32	29	10
保菌者	15	13	19	20	8
計(感染者)	44	42	51	49	18
※2020年1月1日～2020年9月7日現在まで本件含む 2020年内訳 患者：O157 (9人) O26 (1人) 保菌者：O157 (5人) O128 (1人) O146 (1人) 型不明 (1人)					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱 (菌を殺す)					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却 (菌を増やさない)					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫 (10℃以下) や冷凍庫 (-15℃以下) に入れましょう。					
③ 清潔 (菌をつけない)					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					